

北部農業の将来モデル構想

作成年月日	令和 6 年（2024年） 6 月12日
農業農村振興事務所 農産普及課名	湖北農業農村振興事務所 農産普及課
対 象 品 目	土地利用型品目 （水稻、麦、大豆、水田野菜等）

1. 将来モデル構想の概要

- 湖北地域において、個々の土地利用型農業の大規模個別経営体（法人）が更なる経営発展を実現させるために、経営体間の連携強化を図ることの重要性が理解され、その将来ビジョンを共有している。
- 将来ビジョン達成のため、水田の集約化を加速させると同時に、スマート農機導入や RTK 基地局等からの位置補正情報の活用を促進することにより、生産性が高く省力的、高精度で初心者でも熟練者並みの作業を実現する土地利用型農業が展開されている。
- 土地改良区との連携により、集約化が進む水田での 1 h a 以上の規模の大区画ほ場整備事業の導入に向けて協議体制が整っている。
- 上記の取組により、雇用就農を主体とした新規就農者が 2 名以上確保されている。

2. 将来モデル構想地域の現状

- 湖北地域では農地の集積は一定進みつつあり、一部の地域では農地の集約化も進んでいる。
- 自動直進機能を有するトラクターや田植機、ドローンが個別に導入されている。
- 個々の経営は経営面積も安定し雇用を確保しているが、周辺の小規模農家の離農の増加や 5ha 以上の経営体のリタイアによる面積拡大に伴う労働力の確保が困難な状況にある。
- 個別経営体の更なる発展に向けて、大規模個別経営体（法人）間の連携等について、対象地域を絞って一堂に会して話し合う場がない。

3. 将来モデル構想地域の目指す姿

- 個別経営体（法人）間の連携強化が図られ、更なる農地の集約化が進んでいる。
- 個別経営体（法人）個々の経営発展や経営体間の連携の在り方等が話合われ、経営発展ビジョンが明確となり、その実現に向けての行動計画が樹立されている。
- 土地改良事業を活用した大区画ほ場整備による 1 h a 以上の規模の水田で、スマート農機と RTK 基地局等からの位置補正情報を活用することにより、生産性が高く省力的、高精度で初心者でも熟練者並みの作業を実現する土地利用型農業が展開されている。
- 上記の取組により、雇用就農を主体とした新規就農者が 2 名以上確保されている。
- 地区で集落営農法人等も含む経営体間での話し合いの場がもたれている。

4. 将来モデル構想の目標（令和9年度を目標年度とする）

年 次	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度 目標
各個別経営体の連携 による経営発展ビジ ョンの完成と実現に 向けての行動計画の 樹立	ビジョン完成	ビジョン実現に向け ての行動計画の検討	ビジョン実現に向け ての行動計画の樹立	ビジョンに向けての 実践が開始される
地域内での新規就 農者増加数(人) ※1	0	0	2	4

（注）※1 現状年からの累計人数を記載する。また、新規就農者には親元就農、雇用就農、独立自営就農を含む。

5. 将来モデル構想の実現に向けて必要な機械、施設等を導入する対象農業者の姿

- 地域農業の担い手として営農管理システムやデータ分析を活用し、更なる経営発展への意欲がある。
- 農地の集約など経営体間の連携が重要という認識を持ち、協調性を有している。
- スマート農機の運用を始めており、その機能に関し一定の知識と経験値を有している。
- 新たに従業員を雇用し、RTK 基地局等からの位置補正情報を活用した直進・自動操舵機能を有したスマート農機のオペレーターを育成している。
- ドローン等を活用した防除等の農業支援サービス事業を展開している。
- 機械化一貫体系による高収益作物を栽培している。
- 大区画による省力化を進めている。